

会 議 記 録 (概 要)

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和4年度第4回高松市総合都市交通計画推進協議会
開催日時	令和5年2月21日(火) 13時30分～14時20分
開催場所	高松市役所 13階 大会議室
議題	議事 (1) 令和4年度取組事業 (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	土井委員、紀伊委員、四之宮委員(代理：新居)、植田委員、斎藤委員、野口委員、寺師委員、吉田委員、土井委員、東原委員、黒木委員、関口委員(代理：西田)、木村委員(代理：浅井)、村上委員、岩崎委員(代理：小野)、西崎委員、石川委員、大西委員、形部委員 オブザーバー：石丸課長、尾幡課長 (欠席者：委員3名)
傍聴者	1人(傍聴席：10席を確保)、報道 0人
担当課及び連絡先	交通政策課 087-839-2138

審議経過及び審議結果

開会

(事務局)

本日は、委員の半数以上が出席しているため、当協議会設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立する。

1 議事

次の議事について協議し、下記の結果となった。

(1) 令和4年度取組事業

・・・事務局から説明(資料1)

(委員)

電車とバスの乗り継ぎに対しては乗り換えしやすい割引があるが、バスとバスの乗継割引は考えていないのか。

(事務局)

本市においては、電車とバスを乗り継いだ際に運賃から100円を割り引く施策を行っている

が、同様に、路線バスとコミュニティバスを乗り継いだ際に、運賃から100円割引く、バス・バス乗継割引を行っている。

(委員)

路線バス同士の乗継割引はないのか。

(事務局)

路線バス同士の乗継割引は行っていない。

(委員)

分かりました。

(会長)

事務局から、鉄道とバスの乗り継ぎ拠点である伏石駅の説明があったが、利用状況や今後の利用促進施策等について、ことごと、ことごとんバスから御意見をいただければと思う。

(委員)

- ・来月18日から、ことごとん全線で終電を23時台まで繰り下げる。琴平線で30分、長尾線で51分、志度線で46分の繰り下げとなる。新型コロナウイルス感染症の感染状況や利用状況に応じて、徐々にダイヤの復便を行ってきたが、この繰り下げにて、コロナ前の約9割の運行水準まで戻ることとなる。今後も利用状況に応じて、弾力的なダイヤ設定を行ってまいりたい。
- ・同じく18日から更なる省人化の取組として、ことごとん長尾線におけるワンマン運転を開始する。昨年4月の志度線のワンマン化と合わせて、27名の車掌の削減が可能となり、シンプルな運営体制としたいと考えている。
- ・コロナ禍において企画乗車券の取組が行えていなかったため、次年度以降、積極的に商品開発を行っていきたいと考えている。一つ目は、「レール&リムジンバス」として、空港リムジンバスと電車のフリーきっぷを組み合わせた企画乗車券を発売し、インバウンドを含む来県者の方の利用促進を図りたい。二つ目は「ことごとん×NEW レオマワールドセットきっぷ」として、沿線の大型レジャー施設であるNEW レオマワールドと割安感ある企画乗車券を発売する計画であり、協議を行っている。
- ・コロナ禍で3年間開催を中止していた「春の電車まつり」を、来月25日に瓦町FLAGの屋上で4年ぶりに開催する。

(ことごとんバス株式会社)

- ・伏石駅について、現在4路線が結節している。鬼無地区とゆめタウンの結節や、サンフラワー通りに新たにバスを運行するなど強化を図ってきた。また、伏石駅サンメッセ線については利用者の多い時間帯に大型車両を導入するとともに、ラッシュ時間帯の交通状況を踏まえ電車との乗り継ぎをよくするため、11月にダイヤ改正を実施した。伏石駅については、引

き続き結節するバス路線の計画を検討していきたいと考えている。

- ・高松空港リムジンバスを国際線の運行に合わせて増便し、東京便については1両から2両体制に増やした。また、屋島山上線について、「やしまーる」の開業に合わせて増便した。
- ・企画乗車券として、高松空港リムジンバスと男木島・女木島の周遊きっぷをセットにし割引して販売している。また、高松ーソウル線運航再開に合わせ、エアソウル利用のバスチケットの取扱いを行っている。
- ・高松市支援の下、JR高松駅及び高松市役所本庁舎1階に、リアルタイムなバスの運行状況を表示するデジタルサイネージを設置し、市役所については明日から運用を開始する。引き続き、利用者の利便性向上に取り組んでまいりたい。

(会長)

ことでん、ことでんバスともに、利便性向上の取組について着実に進めていただいております、ありがたい。続いて、JR四国で、コロナ禍で行ってきた利用促進につながる取組があれば御説明いただけるか。

(委員)

- ・利便性向上という観点で御説明させていただく。今年度のトピックスとして、香川県内全駅に電車の運行情報を表示するデジタルサイネージの設置を完了した。
- ・昨年11月に、チケットアプリ「しこくスマートえきちゃん」の運用を開始し、一部企画切符の販売を行っている。春からは乗車券や定期等、取扱い商品を拡大し本格運用開始となるよう準備を進めており、将来的にはMaaSプラットフォームを目指した取り組みということで開発をしている。
- ・来年度に向けて、国や県からの支援も受けて、坂出駅と丸亀駅に洋式トイレの増設を計画している。

(会長)

続いて、タクシーの分野ではどのような取組がなされているか。

(委員)

多肥・仏生山地区コミュニティバスについて事務局から状況を御説明いただいた。現時点では試験運行の段階ではあるが、収支率が継続運行の達成率に届かないということで、まだまだ地域でも運行について知らない人がいるのではないかとこのところ、周知・啓発の徹底と、地域から発案の運行でもあるため、地域の方には積極的な利用をお願いしたいと思う。

(会長)

国における取組の紹介をお願いしたい。

(委員)

新型コロナウイルス感染症によるライフスタイルの変化の影響もあり、地域公共交通は大変厳

しい状況に置かれている中、国においては「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の一部改正に向けて動いている。

大きいトピックスを申し上げますと、

- ・ローカル鉄道の議論を活性化させるため、再構築に関する仕組みの創設・拡充
- ・バス等における利便性向上に資するような取組としてエリア一括協定運行事業など、複数年にわたる再編や運行に係る取組をパッケージで支援
- ・交通分野におけるD X・G Xの推進
- ・鉄道・タクシーにおける協議運賃制度の創設

ということで、これまで単独事業者が念頭に置かれた取組であるが、これらを含めて、協議会に求められる役割や機能が高まっていくものである。他にも、交通と他分野の連携も後押ししており、地域の連携と協働を法に位置付け地域交通の活性化につなげていくというものである。

法改正は早くて秋頃に施行されるものであり、予算面においても様々な事業を準備している。活用等について関心があれば、運輸局に御相談いただければと思う。

(会長)

ますます協議会の役割が大きくなっていくということですね。ローカル鉄道の再構築とのことだが、ローカル鉄道とはどのように定義されるのか。

(委員)

ローカル鉄道の再構築に関する仕組みの創設・拡充については、自治体又は鉄道事業者からの要請に基づき、関係自治体の意見を聴いて、国が「再構築協議会」を創設するものだが、主に都道府県下をまたぐ都市間移動を担う鉄道を念頭に置いたものとなっている。

再構築に当たってはソフトやインフラ整備に対する支援制度も創設される予定である。そうしたところにおいては、ことでんやJ R等、幅広く念頭に置いている。

鉄道の議論については、本協議会や、ことでん活性化協議会、鉄道ネットワークあり方懇談会等、既存協議会での議論を活性化していければよいのではないかと考えているところである。

(会長)

四国全体では鉄道のあり方懇談会が10年ほど前からあり、議論がなされているので、新しい政策に対応できるような地域の土壌があるということだが、J Rだけではなく、ことでんも含めて対応していくと考えるものですね。ただ、制度はこれから作っていくということで、我々からニーズを出していくと、それに応じた制度設計が出来るかもしれない期待もあるという風に受け止めた。

(事務局)

事業者の方々からコロナ禍や今後における取組について心強い説明をいただき、ありがたい話であると感じている。本市としては、公共交通利用者をコロナ前に戻す施策について考えていかなければならないと考えている。これまで鉄道を基軸としバス路線を再編する中で、ことでん伏石駅を整備し、太田－仏生山駅間において2つ目の新駅整備を行っているが、事業を推進するた

めには利用回復は不可欠なものであると感じており、次年度以降、本市においても回復施策を考える中で、各事業者と対話する場も設けていきたい。事業者と行政の連携した取組が必要だと受け止めているので、よろしくお願ひしたい。

(委員)

資料の6ページについて、高松西高線の利用が右肩下がりだが、考えられる原因はあるか？

(ことでんバス)

年度当初は定期購入が伸びていたが、夏休み以降、徐々に自転車など他モードへと切り替えているのではないかと考えられる。

(委員)

高松西高線について、以前は香川大学付近を運行していたが、伏石駅へ結節させて利用は増えているのか。中心市街地の方はどのような移動をされているのか。

(ことでんバス)

新たに伏石や太田のエリアから、高松西高に通っている方が増えていると聞いている。また、中心市街地の方でバスを利用される方は、電車で伏石駅まで移動し、バスに乗り換えて通学されていると聞いている。

(委員)

先ほど、路線バス同士の乗継割引は無いと聞いたが、レインボー循環バスから高松西高線への乗り換えでも発生しないという事か。

(事務局)

現状の利用促進施策の中では、路線バス同士の乗継割引施策は無い。

(委員)

将来的には検討課題になるか。

(事務局)

バスとバスの利用促進施策を考える中で、路線バス同士の乗継割引について念頭に置いていたが、乗り換える路線数を考える中で、今後、路線数の増加や乗換需要を見ながら、導入を検討していくという段階であると考えている。

(委員)

乗り継ぎの障壁を無くしていくためには、路線バス同士の割引制度についても検討していく必要があると思う。

(事務局)

利用回復施策について考えていかなければならないと考えている。モード間でのシームレスな移動は不可欠であると考えており、物理的な部分とソフト的な部分でシームレスにすることが必要であることから、いただいた意見を参考に考えていきたい。

(会長)

貴重な御意見、ありがとうございます。全国的にはバスとバスの乗り継ぎで割引を行っている自治体はいくつかあるが、高松の場合は鉄道が軸であり、鉄道に需要を集め移動を束ねることが最優先課題ということで、まずはそこをしっかりと進めてからになるのではないかと思います。鉄道とバスの乗継割引の実施は大阪でも難しく、それが出来ているのが高松であり、鉄道がしっかりと持続性を維持できることになれば、次の段階へと移っているのではないかと考える。

(委員)

鉄道に乗れない市民の方もいらっしゃるの、バスとバスの乗継割引や、乗った距離に応じた料金体系になれば、乗り継いで駅に来たり、駅を利用してバスに乗り換えるということが出来るのではないかと考える。

(会長)

バスとバスの乗継割引については、まだこれからの検討ということで、先ほど事務局から説明があったので、大変貴重な御提案として承っておく。必要であるものと認識しているが、まだ時間を要するというので御認識いただきたい。

お二人から御要望があったとおり、新しい利用促進が必要であるということは言うまでもない。皆様には、ぜひとも支えていただくようお願いしたい。

また、高松西高線については定期購入の時期に、ぜひとも積極的にプロモーションをしていただきたいと思う。一度利用が下がったとしても、前年度よりも高い利用に戻るといったことが起こるよう期待している。

(2) その他 事務局より連絡事項

- ・次回、令和5年度第1回協議会は5月開催予定

閉会

以上